

No	使用している洗浄消毒剤	中和の方法、システム、フロー図（あるならば）	装置製造メーカー	中和に関するご意見
1	クリーンPL(次亜塩素酸ナトリウム) (株) エーエヌ・テック ステラケア (過酢酸系除菌洗浄剤) 旭化成メディカル	中和の方法、システム、フロー図（あるならば） 透析排水のPHを常時監視し、野外の反応槽にため、苛性ソーダもしくは硫酸でPH調整。 反応槽から生物流動槽にため、その後下水に流す。 処理設備の点検は、2週に1度はAG(株)に委託。 (1.5年ほど前建て替え時に導入したのですが、私が入職する前であり、他に詳しい方がいないため、これ以上の詳細はわかりません。 上記方法はAGの方から教えて頂きました。)	不明	なし
2	硫酸、苛性ソーダ	中和の方法：連続式中和処理方式 システム：透析系排水処理システム	サムテック	今後のために勉強していきたいと思います。
3	アムテック社 ECO2000 及び サンフリースN	塩素還元及び生物処理	東海浄工業	特になし
4	酢酸 (サンフリースN、アムテック株式会社) 次亜塩素 (ダイアクリン、Kao)	当院は、多治見市の下水処理を基に設計をしていますが、透析用水の排水の中和処理はしていません。 現在は、そのまま排水しています。 洗浄消毒剤は、日機装推薦の商品にしており、濃度、時間も日機装推奨にしています。	日機装	中和装置は導入していませんが、今後検討予定となっています。
5	ECO-2000、サンフリースN	pHモニタリングによるフィードバック機構 水道水にて中和	足立工業	特になし
6	二プロ薬品 酢酸70% 10リットル 二プロ薬品 次亜塩素酸ナトリウム 有効塩素12% 20kg	無し	無し	二プロ薬品に確認中
7	ヒシクリンS、サンフリースN	施行せず	無し	マニュアル、ガイドライン等が作成された際は遵守させていただきます。
8	次亜塩素酸ナトリウム溶液 1000ppm 3回/W Citrus-50H 50倍希釈 クエン酸熱湯消毒 3回/W	特に行っておりません。	中和装置も使っておりません。	RO排水とブレンドされて排水口へ流れるため、下水道基準は担保できていると思っておりますが、これを機にシステムを1から考え直して下水道基準に順ずるよう努めてまいります。
9	アムテック株式会社 ECO-200、サンフリース	人工透析排水処理装置 (BGS-43) によるpH中和・還元連続式薬品処理+PUF担体流動床生物処理 フロー 各機能の説明 透析排水流入 ↓ 調整槽 流入排水を一時貯留し、空気攪拌による水質の均一化を行います。 ↓ 計量槽 排水処理量の計量を行います。(1.1m3/時) ↓ 反応槽 排水のPHを中和処理並びに、消毒剤の還元中和を行い、後段の流動生物槽内の微生物への阻害要素を取り除きます。 ↓ 流動生物槽 排水中の有機性物質をPUF担体体に付着している好気性微生物により生物分解を行い、処理水のみがスクリーンを通過します。 ↓ 放流	株式会社エンバイス	特にありません
10	次亜塩素酸ナトリウム、キノサンR200		藤吉工業 (株)	特になし
11	処理装置に洗浄剤を使用しないタイプとなっています	中和緩衝槽+担体流動方式 (添付ファイル参照を)	フジクリン社製 除害ユニット FJR型	他施設の状況を知りたいです。 当院では上記設備にて、中和緩衝槽+担体流動槽+放流ポンプ槽は1回/月のフジクリン工業株式会社の点検で全てPH7.2~8.6程度を保っています。
12	キノサン、次亜塩素酸	硫酸または苛性ソーダによるPH調整 (PH5~9)	CHINO CORPORATION	なし
13	アムテック社製 ECO-200 アムテック社製 サンフリースN	中和装置 (フジクリンFJR型) による中和	フジクリン工業株式会社	2012年病院の新築移転時に中和装置を設置済み 建設時に色々調べ、最終的には下水道局の職員と相談し今の設備を導入しました。
14	ECO-200、サンフリースN	中和設備を有していない	なし	特になし
15	過酢酸系 ステラケア (旭化成メディカル) 塩素系 プロソルブ (旭化成メディカル)	還元中和方式	藤吉工業 (株)	在宅透析において今後新規増設については中和槽を設ける 予定であるが現在までに中和槽を設けていない場合のようにしていくのがよいか検討が必要であり、一部補助も行政にて考慮してほしい。
16	次亜塩素酸Na・ECO-200 (アムテック社製) 酢酸 ・サンフリースN (アムテック社製)	透析排水の水質をpH5.8~8.6 BOD 10mg/dl以下に監視して下水に放流している。	壽化工機 (株)	
17	無し	別途添付	エアウォーター 防災	必要な処置かと思えます。
18	ECO-200 (アムテック社) サンフリースN (炭酸カルシウムスケール溶解剤)	中和緩衝槽でpH緩衝し、担体流動槽で生物処理	フジクリン工業株式会社	生物処理の調整の仕方により溜りの異常発泡あり
19	クリーンPL (株式会社エーエヌ・テック)	なし	なし	当院は昭和53年の施行時には活性汚泥法による処理がおこなわれていました。その後増築を繰り返すうちに、下水道へ直接排液するようになったと施設課より確認しております。下水道事務所からも問題を指摘されたことはないそうです。中和方法について良い方法がありましたら教えて頂きたいです。
20	サンフリースNとECO-200	中和緩衝槽+担体流動方式	フジクリン社製 除害ユニット FJR型	他施設の状況を知りたいです。 当院では上記設備にて、中和緩衝槽+担体流動槽+放流ポンプ槽は1回/月のフジクリン工業株式会社の点検で全てPH7.2~8.6程度を保っています。
21	ダイラクミ 6日/週 キノサン 3日/週	浄化槽を改造したもの、 長時間ばっ気活性汚泥+接触酸化 [3次処理] 沈殿分離+接触ばっ気 計画処理水量：35m3/日 計画放流水質：pH5~9 BOD 600mg/L SS 600mg/L	管理会社：岐阜藤吉工業株式会社	特になし